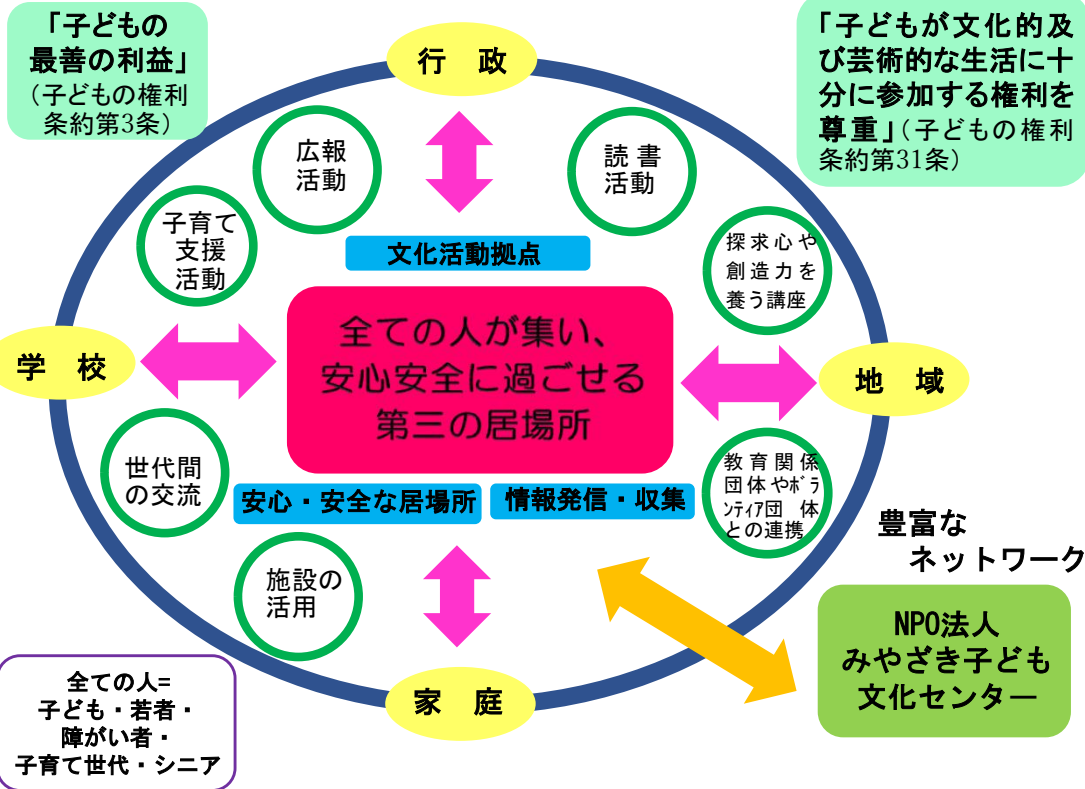


宮崎市きよたけ児童文化センター 概要版①

管理運営にあたっての基本方針



市民の平等な利用の確保

- すべての来館者が安心、安全に利用できるよう館内の案内、整備に努めます。
- 各世代に合わせたイベントの実施
- 誰でも閲覧できる情報発信



要望、意見、苦情への対応

- 活動ごとにアンケートを実施し、要望や意見を把握し次の活動に取り入れていきます。
- 利用者や運営委員会等から出された要望や意見を真摯に受け止め、問題解決を図ります。
- 解決した要望等については、館内掲示やホームページ等で広く公表し、「来館者の意見が届く」実感をしていただきます。

利用者サービスの向上に関する提案

- 利用者の要望に沿った資料の充実と情報収集、情報提供を行います。体験活動の実施やすべての人が利用できるイベントの開催や支援活動を行います。

【読書活動】

司書を配置し、計画的、効果的な図書室運営を行います。

【探求心や想像力を養う活動】

子どもたちが「本物」に出会う機会を多く提供していきます。

【世代間交流活動とボランティア活動】

大学生やボランティア（大学生、中高生、一般）を幅広く活用

【団体の育成と施設の有効活用】

子どもの社会教育に関わる団体などの文化活動等で施設を活用して頂くために、広く連携及び広報していきます。

【広報活動】

紙媒体及びSNS等を駆使し誰もが手に取れるよう幅広く発信していきます。

【子育て支援活動】

子育て中の保護者を積極的に支援していきます。

- 施設の維持管理を徹底し、利用者が快適に過ごせる環境を作ります。



宮崎市きよたけ児童文化センター 概要版②

利用者の増加を図るための取組

- 広報紙、ホームページ、SNSでの情報発信
- 近隣施設との連携
「子育て支援センター」「清武文化会館」「安井息軒記念館」大学など
- 「中高生が集まる第三の居場所」の提供
- 40周年事業実行委員会の立ち上げ
中高生・運営委員・地域住民・芸術家など

施設の設置目的の理解と課題

【目的】

- 安心・安全に過ごせる居場所の提供
- 文化芸術活動に自由に参加できる場の提供
- 地域と連携した交流事業
- 地域のワンストップセンターを目指す

【課題】

- 「児童文化」との名称が「児童（小学生）だけの施設」と認識されている。
- 中高生世代の地域の居場所が限られている。

【提案】

- SNSの活用、地域の民生委員などへの情報提供
- 中高生が主体となる「ティーンズ教え隊（仮）」の結成



〈中高生の第三の居場所〉

- ・ 夏休みの宿題指導
- ・ おたのしみ工作指導
- ・ 「なんもしなくていい」
ゆっくりできる場所の提供

施設の効用を最大限に発揮できる提案

外部の芸術家や地域の様々な資質を有する多くの方を積極的に講師として招き、魅力ある事業を展開していきます。

【図書室の活用】

- 2万4千冊の児童書
- テーマに沿った本の展示や配置

【学習室・創作活動室及び各部屋の活用】

- 本物に出会い、本物に触れる機会の提供
 - ・ 音楽や人形劇の鑑賞会
 - ・ 地元アーティストを講師としたワークショップ
 - ・ 気軽に参加できる工作・遊び・音楽活動・英会話などの体験
 - ・ 未就学児と保護者の為のおもちゃの部屋
- 学校をお休みしている子どもや配慮の必要な子どもたちと保護者に対してニーズに沿った支援活動を行います。

(令和4年度実績)

(単位：回)

読書活動	探求心や想像力を養う活動	世代間交流活動	子育て支援活動	団体との連携／の有効活用	合計
14	165	24	69	88	360



【テーマに沿った絵本の展示】



【音楽教室】



【幼児工作教室】



【アーティストによる造形教室】



【アートステーションどんこや 作品展示】

宮崎市きよたけ児童文化センター 概要版③

指定管理料に対する提案額

(単位：千円)

令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
10,387	10,387	10,387	10,387	10,387

・収入として参加費を取ったり、外部資金（助成金等）を調達すし、事業を充実させます。

業務の効率化と経費の縮減

- 職員一人一人が、施設のミッションを理解することが重要
- 節電、省資源によりコスト削減を徹底します。
- イベントなどで参加者がキャンセルをした際に出る工作などの材料については、無駄にせず新たなイベントを実施したり、次の機会に使用し経費を縮減していきます。

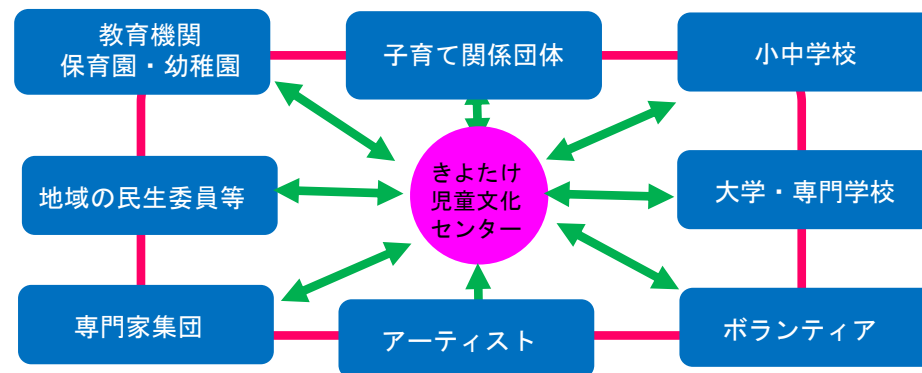


【のんびり工作】
キャンセルなどで残った材料を使った工作

人的体制の確保及び研修体制

- 正職員による責任ある運営と、パート、アルバイト、ボランティアによる十分なサポート体制を整備します。
 - また、アーティストや保育士、教員免許、図書館司書等資格保持者を効果的に配置し、利用者にとって魅力的な運営を行います。
 - 子どもの権利や心理、配慮を要する児童の支援に関する研修
 - 個人情報保護、ハラスメント、アンガーマネジメントなどの研修
 - SDGs、ジェンダー、ワークライフバランス等の研修
- ※令和4年度 研修受講実績 14回（添付⑪）

事業計画の実現可能性



市との連携

- 市の担当者と運営に関して定期的な協議や情報交換を行います。
- クレーム対応や事故については、速やかに連絡を取り合い、適切な対応が取れるように連絡体制を整えます。

地域や利用者のニーズ

- アンケートやヒアリング調査によるニーズ把握。
- 運営委員会による客観的な意見を頂き、管理運営に反映させます。
- 職員が講師となり保育園や幼稚園、支援学校、または依頼のあった地域の施設など創作活動の指導を行います。
(アウトリーチ事業)

申請者の安定性、信頼性

- 2022年度決算額は、事業高2.1億円です。
- 設立から20年以上安定した財政基盤を構築しています。
- 「グッドガバナンス認証の取得」信頼性が見える化するため。
(※現在1次審査クリア) (添付⑭)

危機管理に対する対応

- 危機管理マニュアルを整備。
事故を発生させないことが前提ですが、発生することを想定し、マニュアルに従い対応します。
- ヒヤリハット事例の記録化、原因分析、改善策の策定

雇用に対する基本的な考え方

- 正職員を中心に、専門性を持つ非常勤職員を雇用。
- 子育て世代が働きやすいように、時短勤務や子どもの送迎等に合わせたシフト調整。
- アルバイトやボランティアの採用をすることで、効率的な運営を行う。
- 障がい者の直接雇用はもちろん、就労支援を行う法人との連携も行き、障がい者の活躍の場を可能な限り作っていきます。

環境に配慮した施設管理

- 省エネルギー、ゴミの減量化、環境負荷のかからない管理を心がけ、事業全体でSDGsに取り組み、課題の解決を図っていきます。
また、事務所内に取組を掲示し、常に意識するよう心がけます。
- 宮崎市が行っている環境学習パートナーを利用した環境学習教室を行います。

子ども・若者・障がい者・
子育て世代・シニア世代、
すべての人たちが
十分に文化芸術活動に参加できるよう
環境を整備し、
それぞれが安心・安全に過ごせる
「第三の居場所」
となるよう目指していきます。

